

V227b JVO portal 開発状況：すばる望遠鏡 Suprime-Cam 処理済みデータの配信と Gaia EDR3 可視化システムの開発

白崎裕治, Christopher Zapart, 大石雅寿, 水本好彦 (国立天文台)

我々 JVO 開発グループでは、国立天文台が保有するすばる望遠鏡や ALMA, 野辺山望遠鏡の処理済みデータや、世界標準のアクセスインターフェイスを実装する Virtual Observatory (VO) サービスへの一元的なアクセスを提供する JVO portal (<http://jvo.nao.ac.jp/portal>) の開発を行っている。本講演では 2020 年度から 2021 年度前半にかけての JVO portal の開発状況について報告する。

まず、昨年度の前半には、すばる望遠鏡 Suprime-Cam の全データを再解析しクイックルック用途として公開した。本データは、これまでと同様に JVO portal のすばる望遠鏡データ専用検索ページ等から配信されている他、VO インターフェイスの一つである HiPS による公開も開始されている。これにより、フランスのデータセンター CDS が開発している Aladin から簡単にデータを閲覧することが可能になった。昨年度の後半には Gaia 衛星による EDR3 のデータが欧州宇宙機関 (ESA) の Gaia Data Archive から公開され、Gaia の提携データセンターの一つである国立天文台天文データセンタにおいても、JVO portal 上でカタログデータの検索や全データのダウンロードなどを行えるようにした。また、今回新たに Gaia WebQL という Gaia カタログ可視化システムの公開を開始した。本可視化システムを使うことにより、大量のデータをダウンロードしなくても Gaia データを簡単に Web ブラウザ上で短時間でプロットすることが可能である。その他、2021 年度前半には ALMA で観測されたスペクトルライン情報のデータベース化へ向けた開発に取り組む予定であり、その進捗状況についても報告を行う。